

公共交通体系を考える



問題は

人が乗らないこと

これに
尽きる……

実態は

巡回バスも日交バスも利用者が低迷しており、赤字運行を続けています。

例えば巡回バス（定員13人）の1便あたりの平均乗車人員と収支は、名和巡回バスが3・68人で、約△3,000円。中山巡回バスが1・9人で約△2,500円。名和と中山の巡回バスの年間赤字額に対して、国県の補助金を受けても約900万円が赤字です。



▲区間・便によってはお客があるが……

なぜ？

便利な家用自動車の普及が一番の要因です。また、巡回バスや日交バスのダイヤ、路線が皆様の要望に合っていないことも考えられ、利用者が低迷しているものと思われまます。

どうする

自動車を運転できない様々な方の移動を考えねばなりません。しかし限られた財源のなか、全ての要望にお応えすることはできません。そこで皆様の要望を最大限活かし、効率的な交通体系に変えて行くために、大山町地域公共交通会議を立ち上げました。現在は皆様の声を交通体系に反映するため、アンケート調査などに取り組んでいます。☆皆様のご意見、お考えをお寄せください。

日交バスについても、年間約1,880万円を支出して路線維持（町内全路線）しています。

*実績は全て平成20年度

◆ご意見・問い合わせ先
企画情報課

☎ 0859・54・5202

E-mail kikaku@daisen.jp